

学会記事

一般社団法人日本地質学会 2022年度第4回(定例) 理事会議事録

日時: 2022年12月10日(土) 14:00-17:45

【WEB会議形式】

出席者: 出席理事43名, 出席監事1名

・会長1名: 岡田 誠
・副会長2名: 杉田律子・星 博幸
・常務理事1名: 中澤 努
・副常務理事1名: 緒方信一
・執行理事12名: 保坂(内尾) 優子・内野隆之・尾上哲治・加藤猛士・亀高正男・小宮剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森 樹・松田達生・矢部 淳・山口飛鳥
・理事会議長1名: 芦 寿一郎
・理事会副議長1名: 小松原純子
・理事24名(議長・副議長, 執行理事を除く): 青矢睦月・天野一男・磯崎行雄・大友幸子・笠岡友博(16時退席)・神谷奈々・本郷(川村) 紀子・清川昌一・平出(黒柳) あずみ・桑野太輔・斎藤 眞・佐々木和彦・沢田 健・下岡和也・高野 修・西弘嗣・野田 篤・細矢卓志・榊原(堀) 利栄・松田博貴・三田村宗樹・山路 敦・山本啓司

監事: 岩部良子

欠席者: 欠席理事8名, 欠席監事1名

・理事: 大橋聖和・狩野彰宏・亀田 純・北村有迅・菅沼悠介・保柳康一・道林克禎・矢島道子
・監事: 山本正司

* 成立要件: 理事総数50名の過半数26名 本日の出席者42名で本理事会は成立。

* 議決: 出席者の過半数22名

* 開催にあたって, 黒柳理事および沢田理事を書記に指名した。

* 会長挨拶 新体制発足から任期の1/4(半年)が過ぎたが, 若手および女性会員の増加, ダイバーシティの確保を, 会長・副会長ともに公約に掲げている。これらを理事の協力と共に, 任期中に成立できるようにしたい。

* 前回議事録確認

報告事項

1. 執行理事会報告(中澤常務)

・中澤常務理事より, 10/18, 11/12に開催された執行理事会での議論の内容について, 執行理事会議事録に基づいて報告が行われた(学術戦略ワーキンググループの立ち上げ, 日本学術会議「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の提案について ほか)。
・西理事より学術会議が公募する大型研究(マスタープランの後継プログラム: 未来の学術振興構想)では他分野との連携, 共存を強調した提案が良いとの意見が出された。また次期学術会議会員・連携会員の情

報提供依頼(推薦リスト)について, ジェンダーバランスや地域に配慮し, 地質学会としてのプレゼンスを示すのが望ましいという意見が出された。

2. 総務委員会(亀高理事)

・亀高理事より, 会員動静について, 11月末会員数が3306人(内訳, 賛助: 27, 名誉: 38, 正会員3241[内 正3118, 院割116, 学部割7]) (昨年比-57) であることが報告された。

・ご逝去された会員(6名)について報告があり, 理事会で黙祷を行った。

・会員システムのクラウド化の進捗について, 事務局の方では運用を開始しているが, 会員に公開する画面の検索機能の実装などをカスタマイズ中であり, なるべく早くの公開を目指している, との報告があった。

3. 行事委員会(高嶋理事/山口理事)

・2022早稲田大会: 現地開催にて実施した。その際, 会場運営(講演会場でのセッションなどの張り出し, タイムキーパーの時間設定, 時間厳守等), 巡検運営(コース設定や悪天時の対応など), ポスターセッション(ブレイクアウトルームの時間設定の周知)などにおいて様々な反省点があった。理事からも, 次回からの改善点についてお気づきの点があればメール等でご指摘いただきたい。トピック・ジェネラルセッションへの改革についてはまだ周知がいきわたっていない点もあり, 行事委員会を通して専門部会への説明をさらに続けたい。

・2023京都大会: 大会準備状況について下記の報告があった。

市民講演会: 日時: 2023年9月17日(日) 13:00~15:00, 科研費申請時のタイトル「京都とその周辺の地震活動」。講演者2名が決定した。

「歴史記録と地質からみた京都の地震(仮)」(産総研: 小松原琢氏)

「微小地震から見た京都周辺の地震活動と地震を起こす力の向き(仮)」(京都大学: 飯尾能久氏)

巡検案内書: メーリングリストを立ち上げ, 著者へ執筆依頼および執筆要領を送付した。原稿締め切りは2023年1月31日に決定。

巡検: 7コース(うちアウトリーチ巡検1), ワークショップ2コースで巡検準備進行中。詳細は2022年度第3回執行理事会議事録を参照。

・2024山形大会準備状況: 巡検コースの検討, 会場の仮予約, 学会運営業者選び, 学長などへの挨拶を調整中。巡検コースは候補がある程度挙がった状態であるとの報告があった。

・2023JpGU大会地質学会共催セッション: 下記のセッションを提案した。

1. 岩石・鉱物・資源, 2. 変形岩・変成岩とテクトニクス, 3. 年代層序単元境界の研究最前線, 4. 火山・火成活動および長期予測,

5. 堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動, 6. 活断層と古地震, 7. 日本列島および東アジアの地質と構造発達史, 8. 地球史解説: 冥王代から現代まで, 9. 地質学のいま, 10. Evolution and variability of the Asian Monsoon and Indo-Pacific climate during the Cenozoic Era, 11. ジオパーク

・第6回ショートコース(22/12/18開催予定): 現在申込者数51名, もう少し参加人数を増やしたい, 参加申込受付を12/12(日)12時まで延長する。また, 山口理事より, 今後予定されているショートコースの内容についての説明があった。第7回は来年4月頃を予定。会費については, 会員と非会員との差額を大きくする。来年以降も継続していく予定であり, 周囲への告知をお願いしたい, また講師依頼があった際はぜひ快諾してもらいたいとの要望があった。

4. 地質学雑誌編集委員会(小宮理事)

・小宮理事から, 2022年の投稿論文は67本で昨年よりも多数(昨年比+25)であったとの状況報告があった。

5. Island Arc編集委員会(狩野理事, 代理辻森理事)

・辻森理事から, 投稿数自体は大きく増えていないが(昨年比+8), 2022年は2020, 2021年に続き比較的高めの論文受理数(投稿数62編, 受理率67%)であったとの状況報告があった。

・2-Year Impact Factorは, 昨年はIFの算定基準の移行期でほぼ全ての雑誌で見かけ上, 数値が上がっている(2年前は見かけ上, 低い値であった。昨年度は2.442と過去最高を記録した)。今年はIF値で2はやや厳しそうである。また, 来年度のIFはカウント・計算の仕方などの関係から下がることが予想される。積極的な投稿に加え, 他誌でIAR掲載論文を積極的に引用してほしい。また, 査読者選定に苦慮しているため, 査読の依頼があった際は積極的に引き受けていただきたいとの要望があった。

6. 地震火山地質子どもサマースクール(星副会長)

・星副会長から, 日本地震学会, 日本火山学会, 日本地質学会の3学会が普及事業として行なっている地震火山地質子どもサマースクールに関して, 本年8/17-18に浅間山北麓ジオパークで開催された第21回の実施報告があった。本報告内容は地質学会HPに掲載済みである。2023年度は神奈川県平塚市, 2024年度は徳島県三好市周辺で開催予定であるとの報告があった。

7. ジオパーク支援委員会(天野理事)

・天野理事から, 2023年1月28日開催予定の市民対象オンラインシンポジウム「ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学: 古代からの自然観を今に活かす」の進捗状況について報告があった。ポスターも作成済みで,

日本地質学会主催、JGN、JGASUと共催で行う。講演要旨の査読も終了し、地質学会のWebサイトよりDLできるようにする。12/20-1/20で参加申し込みを受け、ニュース誌や来週中には地質学会のWebサイトでも告知予定。地質学会でのWeb告知公開後、JGN、JGASUの各地域のジオパークや、関連学協会への宣伝をお願いする予定。プレスリリースは年明けを考えているとの状況報告があった。

8. 各賞選考委員会（山路理事）

・山路理事より2023年度学会各賞の応募状況について以下の通りに報告された（12/1締切）。学会賞1件、功績賞2件、都城秋穂賞1件、H. E. ナウマン賞1件、柵山雅則賞2件、論文賞7件、小藤文次郎賞2件、地質学雑誌特別賞1件、研究奨励賞6件、フィールドワーク賞2件、以上、推薦数合計25件。学会表彰の推薦はなし。

9. その他

1) 若手会員を対象にしたアンケート調査の結果報告（神谷理事）

・神谷理事より2022年早稲田大会の若手交流会直前に35歳以下のメーリングリスト登録者562名対象で実施したアンケート調査（オンライン、回答数74）の結果報告があった。メーリングリストがよく機能し、連絡が効率的に行われた。また、現地開催とオンライン開催ともスムーズに実施できた。交流会の満足度はおおむね高かったが、時間が足りなかったという意見もあった。また、希望する若手対象のイベントとして、巡検希望の回答が半分近くあったとの報告があった。星理事から、今後の課題として、交流会開催にあたっては、十分な時間の確保と参加しやすい環境を作るため、他の夜間小集会などと被らないような時間設定を考慮することが挙げられた。

2) 国際関係（岡田会長）

・岡田会長よりIGC2024韓国大会へのSupporting Letter撤回の決定について、今回の発端や経緯に関する状況報告があった。（詳細は、ニュース誌2022年11月号に掲載）。

・日本地質学会と大韓地質学会との間の学術交流協定（MOU）は、本年10月に失効したが、現時点では更新はしていない。

・これら国際案件に関して、学会HPの会員ページに会長メッセージを掲載した。

3) 地質技術者教育委員会報告

・坂口理事より地質系大学・機関の卒業・修了者の進路（2021年度地質系若手人材動向調査報告）についての報告があった。総数は概ね年間1,000名程度で推移している（2021年度は1,102名）。2020年度の詳細はニュース誌に掲載したが、2021年度は概要説明のみをニュース誌に掲載し、詳細はHPの会員ページに掲載した。

・第3回JABEEシンポジウムの開催予定について報告があった。「大学-企業の架け橋教育 ユニークな事例紹介」をテーマとし、

2023年3月5日（日）13:30-18:00（予定）オンラインで開催、講演者、タイトルなどは今後決定する予定。

・2021年度から開始された「技術士（CPD認定）」制度について報告があった。本学会もCPD単位の発行機関であり、学術大会やショートコースなどで単位発行している。詳細は学会HPに掲載。

審議事項

1. 2022年度事業実績概要（案）（岡田会長）

・学術大会、社会貢献、学会運営などを含めた、2022年度の事業報告案が示された。地質学雑誌の完全オンライン化後の経過-投稿数の増加、日本語版国際年代層序表の更新、JABEEとの連携、ジュニアセッションの実施、会員の獲得、学生会員の会費の変更、学術大会の優秀ポスター賞を廃止し、新たに口頭発表も対象とした学生優秀発表賞の設置検討、学会事務局における新たな組織・人員体制による業務の整理統合と効率化などについて、概要の説明があった。3月までの活動を追加して、次回4月理事会で最終提案予定。

2. 2023年度事業計画骨子（案）（岡田会長）

・豊かなダイバーシティのもと学術活動を進めると同時に、健全な学会運営を大きな目標として、学術大会は9/17-19に京都大学で現地開催を目指す、学術研究活動はショートコースの定着・整備を進める、などをはじめ、出版活動、地質災害対応、広報・普及活動、社会貢献、地学教育、国際連携、会員サービス・学会運営について次年度事業計画案が示され、承認された。天野理事から、高等学校で「地理総合」が必修科目となったことにより、地質学会でも積極的に関与したいとの要望が出された。

3. 2023年度総会の日程（中澤常務）

・2023年6月3日にオンラインで実施することが提案され、承認された。コロナ前まではJpGUに合わせて開催してきたが（対面開催）、オンライン開催のため、JpGU終了後で問題ない。

4. 地質学雑誌投稿編集出版規則の変更（小宮理事）

・地質学雑誌の投稿規定について、次の8項目の規則変更について審議を行い、承認された。（1）オーサーシップ：故人などを共著者に加えることを可能とする。故人が担当した部分の責任についても考慮。（2）受付処理について、実態に即した形にする。査読に要した期間を実態に即した形にするため。（3）Editor reject（査読に回さない）を明確な形で可能とする。（4）紙ベースでの投稿の名残があるので、その点を修正。（5）受理から出版までを実態に即した形にする。受理后に要した期間を実態に即した形にするため。（6）冊子体についても、規則に加筆。（7）著者の貢献の記述のガイドラインをより明確にする。（8）特集号において、投稿が遅れている論文の定義の変

更。前者について、従来の特集号提案の受諾から3ヶ月→6ヶ月に延長、後者について特集号に含められた論文の一つが最初に受理されてから1年以内。

・上記の規則変更について、次の意見交換があった。松田博貴理事から、故人の逝去日の記述が必要かどうかの意見。小宮理事からの回答→非常に古い故人（数十年前等）を著者に含む場合への考慮。国際誌ではよく記述されている。松田理事から、Editorリジェクトについて査読不要の表現は誤解を招くので工夫が必要。西理事から、規則の文言はもっと緩やかな表現で記述した方がよい。

・上記の意見を受けて、今後細かい文言等の修正を行うことが確認された。修正については、今後執行理事会などでメール審議予定。

5. 2023年度名誉会員推薦委員会委員の選出（星副会長）

・階層別の委員案についての提案が示され、承認された。加えて、理事会選出委員として大友幸子理事を選出した。

6. 各種委員会の代表者変更、委員追加の承認

・下記の南極地質研究委員会、地質技術者教育委員会および行事委員会の変更・委員追加案についての提案が示され、承認された。

（南極地質研究委員会）委員長交代：小山内康人→大和田正明、委員追加：中野伸彦、足立達朗、加々島慎一、北野一平（地質技術者教育委員会）委員追加：藤代（阿部）祥子

（行事委員会）委員交代：田村嘉之→新里忠史（環境地質部会）、遠藤俊祐→宇野正起（岩石部会）、納谷友規→辻野 匠（層序部会・地域地質部会）

7. 日本地質学会研究奨励金選考委員の選出（内野理事）

・日本地質学会研究奨励金選考委員長・委員案や募集要項案について審議を行い、承認された。また、満32歳未満であれば有職者も応募可能かという質問がされ、応募可能との回答がされた。また、規定で一般管理費や間接経費に関する文言が追加されたとの報告があった。募集要項への英語併記への要望もあった。英語併記については、後日申請様式の英語版を整備することで対応がなされた。

8. 若手の組織（委員会等）設立に向けた作業着手について（星副会長）

・若手会員からの自発的な活動を今後も継続的なものにするため、現在非公式な集団である若手有志会を、正式な組織（委員会等）にするための作業の着手について提案があり、承認された。

9. 学部学生・大学院生向けオンライン交流会の企画提案（桑野理事）

・就職を希望する学部学生、大学院生向けのオンライン交流会を2023年2月中旬に開催予定。内容としては、地質学に関わる若手

社員に業界について、通常の企業説明会では聞くことの難しい事例などを想定している。学会の公式イベントとして、この交流会開催案を審議し、承認された。

10. 若手巡検・研究集会の企画提案（下岡理事）

- ・下岡理事より、若手巡検・研究集会の企画提案が審議され、承認された。巡検の具体的な内容は、2023年7月の北海道洞爺湖有珠山ジオパーク周辺にて、1泊2日（または2泊3日）若手対象で定員20名程度を予定しており、19,000円（現地までの交通費を除く）が参加費として計算されている。この若手巡検への学会からの金銭的補助を含めた協力、サポートについて審議され、承認された。具体的な補助内容は今後執行理事会で検討する。
- ・このような活動を今後も継続していく予定かという質問があり、できれば続けていきたいと下岡理事より回答があった。辻森理事から、参加者が多すぎた、または少なすぎた場合の対応は検討しているか指摘があった。関連して、杉田副会長と星副会長から最小催行人数についての意見があった。これらの意見に対し、定員は20名で最少催行人数は検討中、応募者が多い場合は選考する予定との回答があった。矢部理事から、人数と費用とのバランスや、バスを利用する場合の旅行会社利用への有無への助言があった。

11. ポスター賞の廃止と学生優秀発表賞の新設について（山口理事）

- ・ポスター賞を廃止（発展的解消）し、口頭発表、ポスター発表ともに対象とする学生優秀発表賞の新設について審議された。他学会では口頭発表も受賞対象であり、これまで不公平感があった。受賞資格者は学生会員のみで、口頭・ポスター問わず、エントリーした発表を対象とする。学生会員でも実際に学生でない（学籍がない）人はエントリー不可。評価者の人数を増やすことにより評価の公平性を担保する。賞の新設が承認され、これに関わる運営規則変更についても承認された。
- ・優秀発表者の評価者、評価方法も併せて改訂予定。評価者は行事委員・LOC・セッションコンビーナー・理事・代議員のうち学生会員以外。評価者数が少ない発表については、各賞選考委員・行事委員・セッションコンビーナーの推薦のもと、各賞選考委員長が全会員の中から評価者を指名する。評価方法は加点方式。
- ・運用については、今後詳細を詰め、できれば2023年度総会で決定し、2023年京都大会からの運用を目指す。西理事から、新設ではなく口頭発表賞を既存のポスター賞に追加するという審議の方がよいとの意見があった。星理事、杉田理事から、評価基準も含めて口頭・ポスターを統一した一つの賞の新設がよいとの意見。審議の結果、新設とすることとした。また、磯崎理事からポ

スターも統一した新しい評価基準のもと、内容を重視した評価をするべきなどの意見があった。

12. その他

- ・岡田会長から、選挙規則の改正に向けて、導入としての意見が述べられた。代議員、理事のダイバーシティ確保のために、選挙規則を改正したい。現在、5所属の最低人数が定められているが、若手・女性という属性を新たに新設できないか、詳細はこれから詰める予定。次回選挙（来秋）に間に合うように4月理事会での承認を目指し、6月総会で確定させたい。これに対して、齋藤理事から、ダイバーシティを重視することで、女性の業務負担が増えるなどの弊害も出ているので、母集団を考慮した慎重な判断が必要との意見があった。これについて、女性の負担が過度にならないように要検討、若手の属性については急ぎたいとの回答があった。日程がタイトなため、メールベースでその都度意見を交換し、議論を進めていく予定である。電子投票に対応した規則変更も合わせて進める。電子投票の導入は次回選挙に間に合わないかもしれないが、規則整備は早めに進めていく。
- ・山路理事（各賞選考委員長）より、学術大会ジュニアセッションの優秀賞と奨励賞の定義を明確にしてほしい、分けない場合は一本化してほしいという意見があった。表彰制度検討WGで検討する。

監事報告

岩部監事より：本日は審議事項の項目が多く、それぞれの審議に十分な時間が取れなかったのではないかと危惧している。会議資料を余裕を持って数日前には配布するなど、各理事が事前に検討する時間を取れるような工夫をお願いしたい。特に次回4月理事会は、総会での承認が必要な選挙規則の改正という大変重要な議題があるので、留意して欲しい。

中澤常務理事より：次回理事会の日程確認（4/15）。2022年度決算が3月末締めのため、少し余裕を見て4/15開催にしたい。総会は6/3予定。

岡田会長より：長時間のご議論ありがとうございました。一つ一つの項目であまり時間が取れない場面もあったが、建設的な議論を継続していくために、今後もご協力をお願いしたい。

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2022年12月28日

理事：議長 芦 寿一郎
理事：副議長 小松原純子
代表理事：会長 岡田 誠

理事：副会長 杉田律子
理事：副会長 星 博幸
監事：岩部良子
理事：出席理事名（省略）